

Canon EF LENS

EF24-105mm f/4L IS II USM



IMAGE STABILIZER

 ULTRASONIC

JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF24-105mm F4L IS II USMは、EOSカメラ用の標準ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

カメラのファームウェアについて

- 本レンズをご使用になる場合は、カメラの最新ファームウェアをキヤノンのホームページで確認してください。カメラのファームウェアのバージョンが最新でない場合は、最新のファームウェアにアップデートしてください。
- ファームウェアのアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や損害の発生を防ぐためにお守りください。

警告 死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- **レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- **レンズキャップを外したまま、レンズまたはレンズを付けたカメラを日光の下に放置しないでください。**太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- **製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。**製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
- **製品の内部には手を入れないでください。**けがの原因となります。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

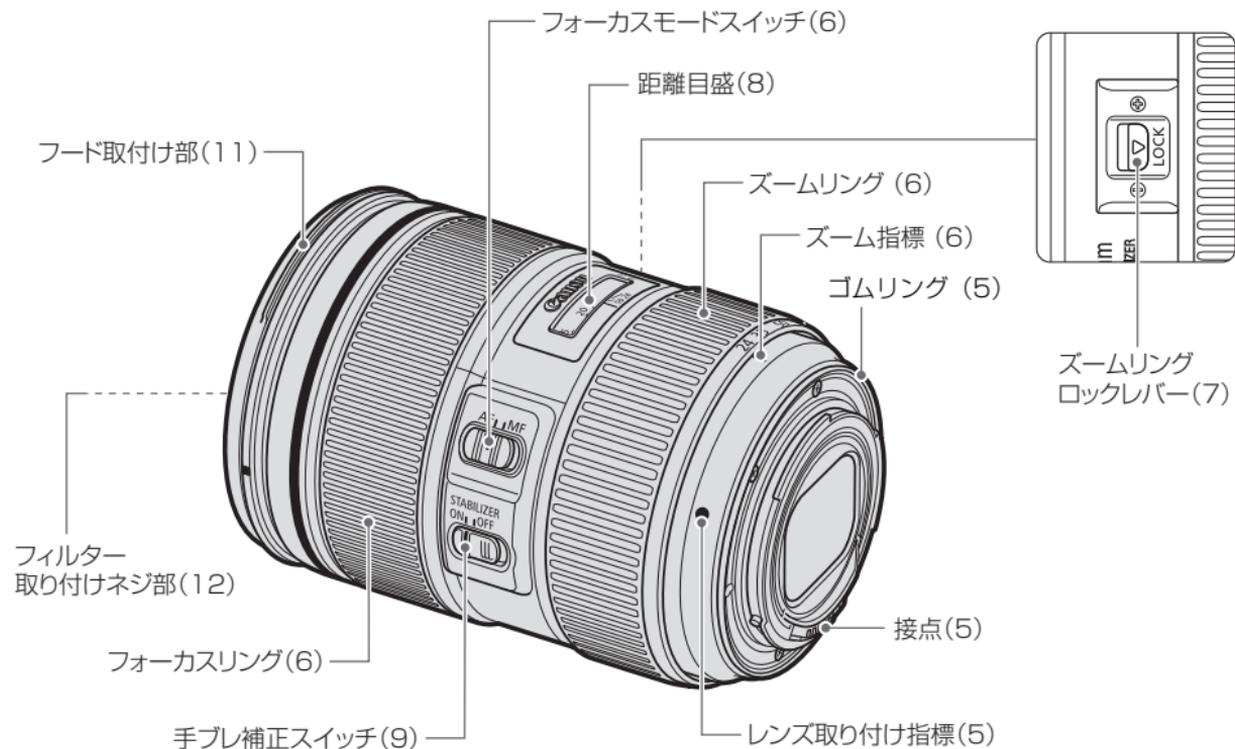
- **直射日光下の車の中など、高温になるところにレンズを放置しないでください。**故障の原因となることがあります。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

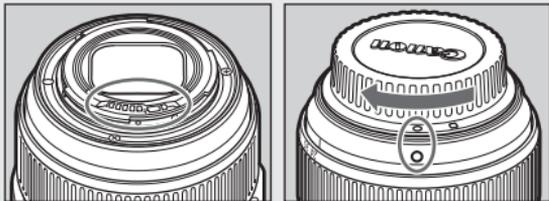
各部の名称



● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

1. レンズの着脱

カメラにレンズを着脱する方法は、カメラの使用説明書をご覧ください。

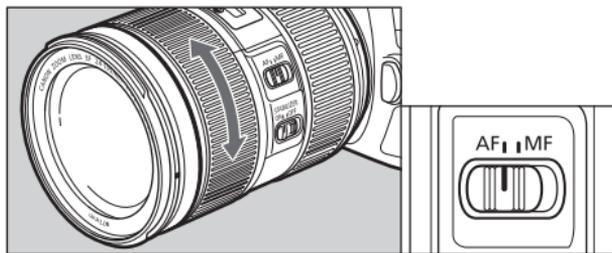


- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、レンズキャップとダストキャップを付けてください。ダストキャップの取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。



このレンズでは、防塵・防滴性能を向上させるため、マウント部にゴムリングを採用しています。レンズの着脱を繰り返すと、カメラ本体のマウントの外周部分にゴムリングの細い擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題はありません。なお、ゴムリングはキヤノンサービスセンターで交換できます。(有料)

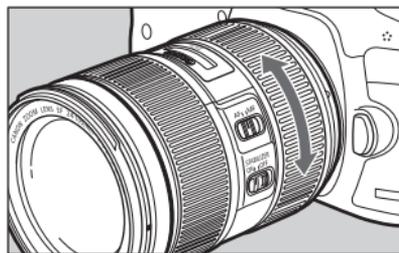
2. フォーカスモードの設定



オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。フォーカスリングは、フォーカスモードに関係なくいつでも動かせます。

 カメラのAFモードがONE SHOT AFのときは、AFでピントを合わせたあと、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。(フルタイムマニュアルフォーカス)

3. ズーミング

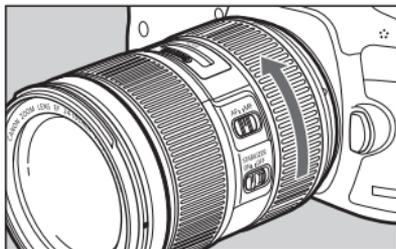
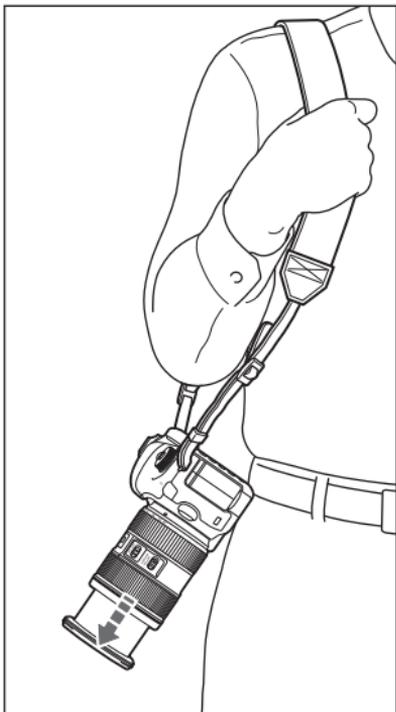


ズームリングを手で回してズーミングします。

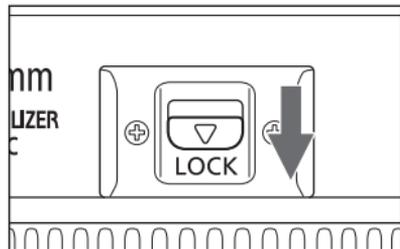
 ピント合わせはズーミングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズーミングすると、ピント誤差が生じることがあります。

4. ズームリングの固定

ズームリングを固定して、レンズを最短状態に保持できます。ストラップ付きカメラに装着した状態で運搬するとき、ズーム繰り出し部が伸びてしまうことを防ぎます。



1 ズームリングをワイド端（24mm）まで回します。

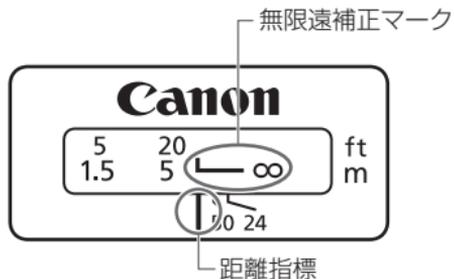


2 ズームリングロックレバーを矢印の方向にスライドします。

- ズームリングの固定を解除するときは、ズームリングロックレバーを矢印の反対方向にスライドします。

! ワイド端以外ではズームリングを固定できません。

5. 無限遠補正マーク

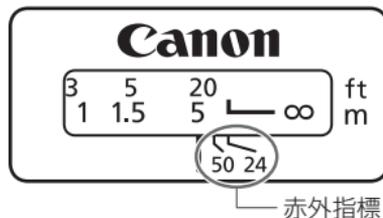


温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠 (∞) 位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、距離目盛のLマークの縦線と距離指標が合うところです。

- 無限遠の被写体にMFで正確にピントを合わせる場合は、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像*で確認しながらフォーカスリングを回してください。

* ライブビュー撮影可能なカメラの場合

6. 赤外指標



赤外指標は、白黒赤外フィルム使用時にピントを補正するためのマークです。MFでのピント調整後に、距離指標が指し示す距離目盛の位置を、赤外指標の位置まで補正量とせずらして撮影します。

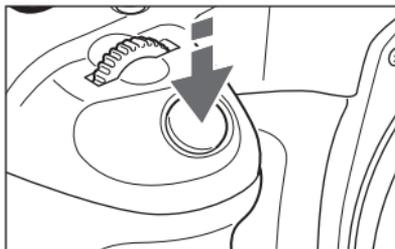
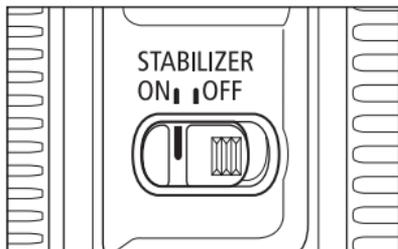
- 赤外フィルムが使用できないEOSカメラがあります。お手持ちのEOSカメラの使用説明書で確認してください。

- 赤外指標は800nmの波長が基準になっています。
- 焦点距離によって補正量が異なります (補正量は、ワイド側が大きく、テレ側が小さくなっています)。焦点距離50、24 (mm) と表示されている赤外指標を目安に手動で補正を行ってください。
- 赤外フィルムに記載されている注意事項も必ずお読みください。
- 赤フィルターを使用してください。

7. 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。

また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じて最適な手ブレ補正を行います。



ON



OFF

1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

2 シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

- ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。

- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- 移動する被写体を流し撮りする場合
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況

手ブレ補正機能

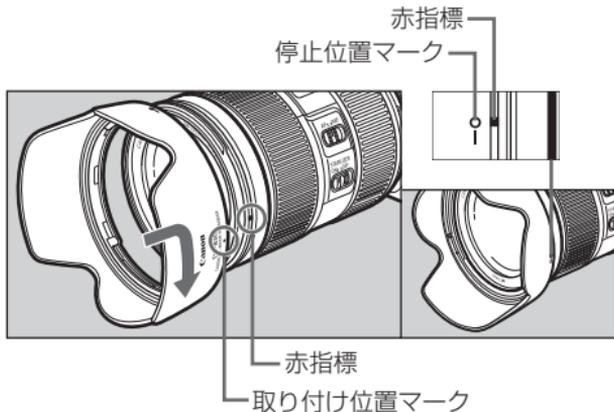
- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ONにすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を〈ON〉にすると、〈OFF〉の時にくらべて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。
- シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正機能が作動しています。この間はレンズを外さないでください。故障の原因になります。
- EOS-1V/HS、3、7、7s、55、Kiss III、Kiss III L、IX E、D30のセルフタイマー撮影では、手ブレ補正機能は作動しません。



- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合も支障なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影条件によっては、手ブレ補正効果が低下する場合があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブ EF12 II/EF25 II を使用しても作動します。
- カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
- カメラのカスタム機能でAF作動操作を変更したときは、変更後のAF作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

8. フード

レンズフードEW-83Mは、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。

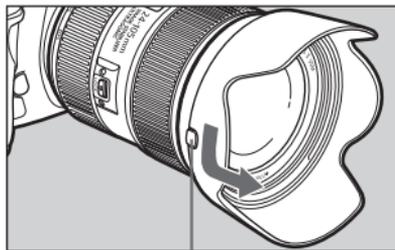


●取り付け

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標をあわせ、赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。



- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。



●取り外し

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外してください。

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

9. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。

- フィルターは1枚のみ使用できます。
- 偏光フィルターはキャノン円偏光フィルター PL-C B（77mm）を使用してください。
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外した状態で行ってください。

10. クローズアップレンズ（別売）

クローズアップレンズ500D（77mm）を使用して拡大撮影ができます。

撮影倍率は、0.05～0.36倍です。

- クローズアップレンズ250Dは使用可能なサイズがありません。
- 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

11. エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

		撮影距離範囲(mm)		撮影倍率(倍)	
		近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	24mm	187	196	0.60	0.50
	105mm	338	1026	0.41	0.12
EF25 II	24mm	使用できません			
	105mm	294	578	0.61	0.27

- 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

主な仕様

焦点距離・明るさ	24-105mm F4
レンズ構成	12群17枚
最小絞り	F22
画角	対角 84°～23° 20'、垂直 53°～13°、水平 74°～19° 20'
最短撮影距離	0.45m
最大撮影倍率	0.24倍（105mm時）
画界	約329×505～99×147mm（0.45m時）
フィルター径	77mm
最大径×長さ	83.5×118mm
質量	約795g
フード	EW-83M
レンズキャップ	E-77 II
ケース	LP1219

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。
- 絞り値は、カメラ側で設定します。ズーミングによる絞り値の変化はカメラが自動的に補正します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00～18:00

(1/1～3は休ませていただきます)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-2111-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon